

山武郡市環境衛生組合新施設等計画 進捗状況について

令和5年12月現在

- ▶ 最終処分場について。(P2)
- ▶ ごみ処理施設整備基本計画を策定しました。(P3)
- ▶ 令和5年度中の用地取得を目指しています。(P4)
- ▶ 埋蔵文化財の本調査を令和6年度に実施予定です。(P5)
- ▶ PFI等導入可能性調査報告書を策定しました。(P6)
- ▶ ごみ処理方式が決定しました。(P7)
- ▶ 今後のスケジュール (P8)

山武郡市環境衛生組合 最終処分場について

令和4年2月に嵩上工事が完了し、埋立容量は44,227m³から76,659m³になり32,432m³増加しました。

今後も安定的な最終処分を行っていくために、現有の最終処分場をいつつ、民間事業者へのリサイクルも併用していきます。

また、令和6年度には今後の最終処分についての基本的な方針を策定予定です。



ごみ処理施設整備基本計画

本組合が整備を予定しているごみ処理施設における基本条件を設定し、脱炭素化を念頭に環境保全計画、災害発生時に対する計画や余熱利用計画を含めた施設整備計画、財政計画と事業方式、その他施設整備に係る事項を取りまとめ、施設整備基本計画として策定しました。

○ごみ処理施設整備基本方針

<基本方針1>

災害に対する強靱性を有し、安全性に優れた施設

<基本方針2>

温室効果ガスの低減など環境への配慮に努め、かつ地域との融和を図った施設

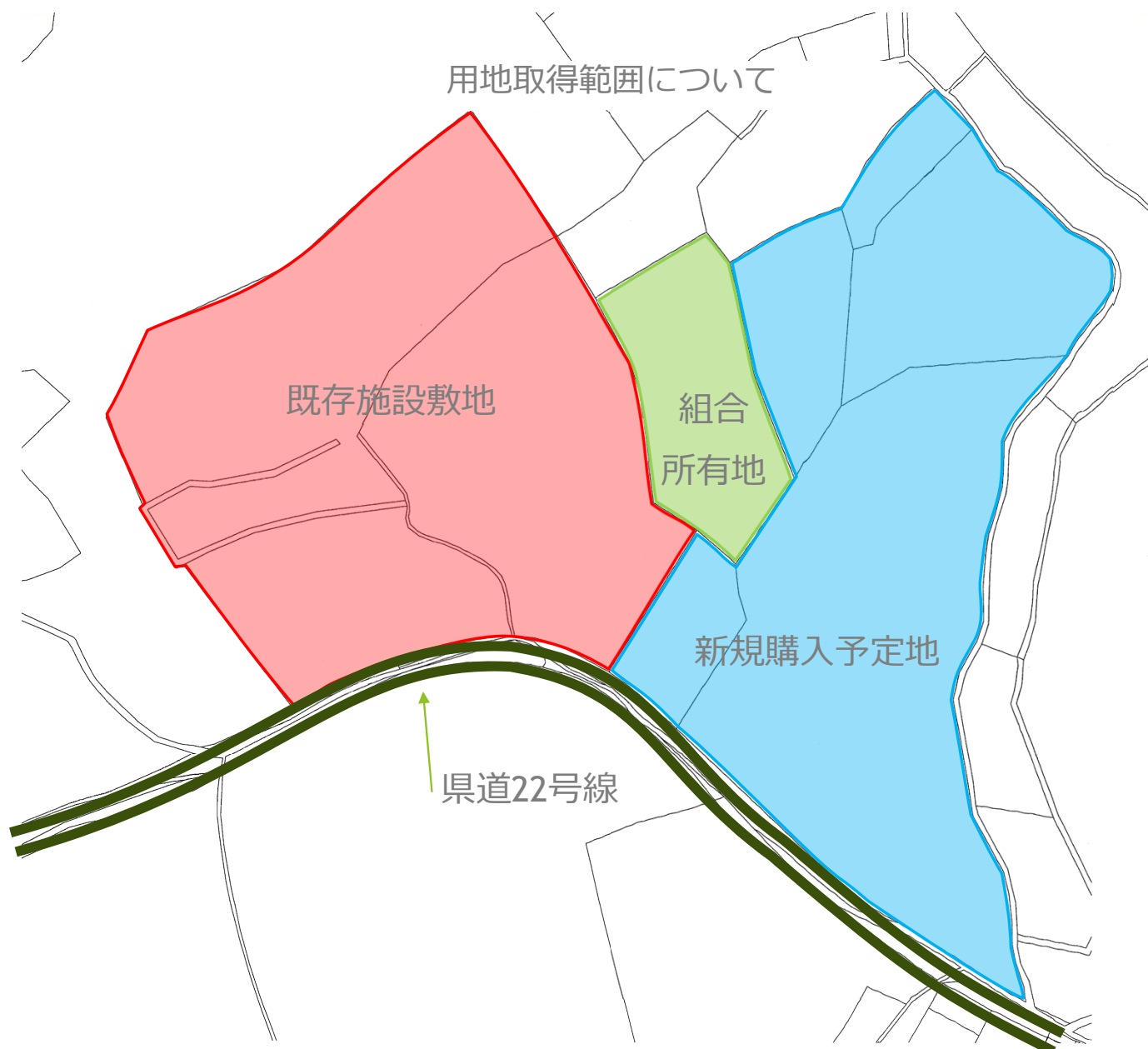
<基本方針3>

エネルギーの利活用を図り、経済性に優れた施設

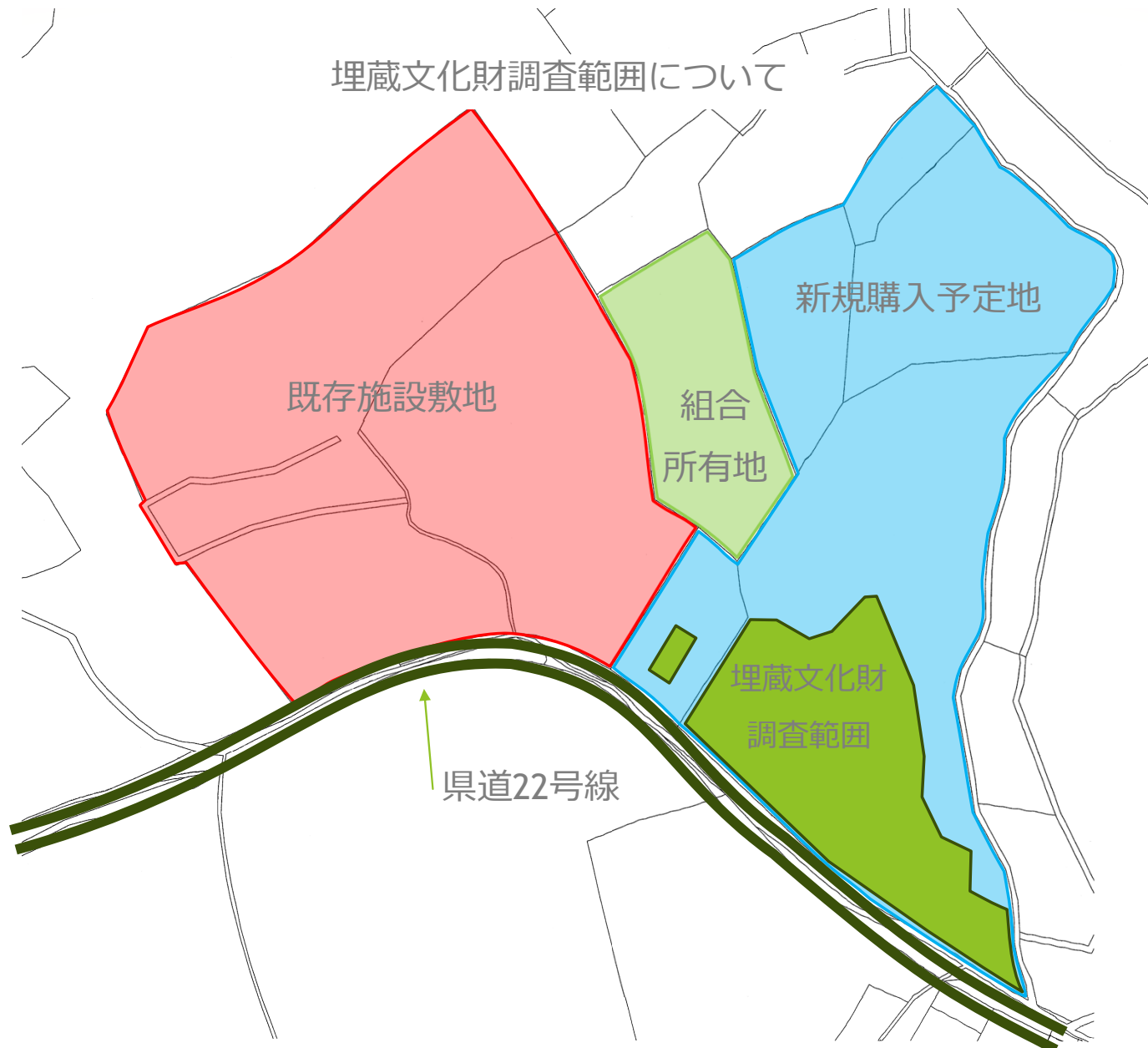
○概算事業費

プラントメーカーへのアンケート調査による概算事業費は、約249～348億円（税抜）という回答でした。

（事業方式：DBO 運営期間：20年 大規模改修工事：運営期間中実施）



埋蔵文化財調査範囲について



PFI 等導入可能性調査報告書を策定しました

新ごみ処理施設建設事業において、安心・安全なごみ処理を行い、環境負荷の低減を図るとともに、発電等のエネルギー回収に努め、経済性も含めた、より効率的な事業方式が求められるため、従来の公設公営方式だけではなく、民間活力を利用した事業方式も含めた検討を行った結果、DBO方式が本組合の計画には、最も優れているとの結論に至りました。

事業方式の種類と概要

方 式	概 要
公設公営方式	公共が施設を建設し、維持管理を含めた運営全体を公共が行う方式。ただし最近では維持管理（施設運転）は委託するケースが多い。
公設＋長期包括委託方式	公共が施設を建設し、運営に関しては、民間事業者に複数年にわたり委託する方式。
DBO（Design Build Operate）方式	PFIに類似した事業方式の一つで、公共が資金調達を担い、施設の設計・建設、運営を民間に委託する方式。
BTO（Build Transfer and Operate）方式	民間事業者が施設を建設し、施設完成直後に公共に所有権を移転し、民間事業者が維持管理及び運営を行う方式。
BOT（Build Operate and Transfer）方式	民間事業者が施設を建設し、維持管理及び運営し、事業終了後に公共に施設所有権を移転する方式。
BOO（Build Operate and Own）方式	民間事業者が施設を建設し、維持管理及び運営をするが、公共への所有権移転は行わない方式。

ごみ処理施設検討委員会からのごみ処理方式について答申を元に組合議会で協議した結果、ごみ処理方式はストーカ方式とする事が決定しました。

また、最終処分場の残余容量を考慮し、発生した主灰は極力、資源化して最終処分場の延命を図る事となりました。

山武郡市環境衛生組合新施設建設に伴うスケジュール

	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
基本設計業務	←————→							
用地取得		◀▶						
埋蔵文化財調査			←————→					
生活環境影響調査 環境影響調査自主アセス	←————→							
都市計画決定		←————→						
発注支援業務 (事業者選定)			←————→					
建設工事					←————→			